

「ロマン」

詰まった「果房 メロンとロマン」。
客さまに提供するメニューを監修
「メロン農家」の方に、その想いをう



プロフィール

M's.FACTORY.LLC(エムズ・ファクトリー合同会社)CEO代表、料理人兼フードコンサルタント、農政局6次産業化プランナー。岐阜県出身。10代続く枝豆農家に生まれ、イタリアの本場2つ星レストランで腕を振るう。食材の視点から地方を見つめ、地方や食材ブランドをメニューで生かすフードコンサルタント。

メニュー監修
宮崎 政喜さん

市産メロンの香りとコク

つがる市産メロンの魅力は2つ、「香り」と「濃く(コク)」です。

全ての食材の旨味の本質である香りとコク。メロンの場合、一般的には甘さばかりフォーカスされますが、甘さの奥にあるコクがつかがる市産メロンを食べると強く感じます。

今年6月に、つがる市内のメロン

農家さんとJAごしょつがるを視察させていただき、徹底した品質管理に脱帽いたしました。美味しくなるわけです。このメロンは皆さまの努力の結晶です。

「定番」を新しい形に

メニューを考える上で大事にしたのは、定番料理につがるのメロンをジョイントすることです。

新しい料理を作ろうとすると「キワモノ」と言われるような、ちよつと変わったものを考えがちですが、それでは消費者の口に入るまで時間がかかってしまいます。「想像ができる、けど新しい」をテーマに、定番のフルーツサンド、パフェ、かき氷などをご用意しました。どれもお客さまの心に響く工夫をしています。

今回は、夏のメニューをご案内しましたが、今後メロンの収穫時期を過ぎても、メロンピュールなどの一次加工、二次加工も上手く選択しながら、一年を通してメロンを食べていただけるメニューを考えてまいります。秋・冬のメニューも楽しみにしてください。

地域の宝にさらなる価値を

他の地域のメロンとは異なる環境で育った、他を圧倒するつがる市産メロン。その美味しさをダイレクトに伝える店が「果房 メロンとロマン」です。首都圏ではつがる市産メロンの認知度はこれからです。ゆえに伸びしろがございません。

皆さまと一緒に、地域の宝としてさらなる付加価値作りをさせていただいたら幸いです。

ぜひ一度、お店にお立ち寄りくださいませ。

初日のカフェは

3時間待ち

オープン初日は雨となりましたが、店の前には開店を待つ50人以上が長い列を作りました。11時30分、福島市長の開店宣言で「果房メロンとロマン」がオープン。この日を持ったお客さんが続々と入店し、店内は大いにぎわいました。

お昼時を過ぎても行列は絶えず、20人収容のカフェスペースは約3時間待ちの状態に。「3種のメロンテイasting」を味わった都内



プロフィール

就農歴9年の若手農家。親子3世代でタカミメロンを中心に約2haを作付け。「果房メロンとロマン」のオープンに向け、メニュー監修・宮崎さんによる生産地視察の受け入れ、店に展示するプランターメロンの提供などに協力。29歳2児の父。

メロン農家(木造吹原)
坂本 新 さん

この人の

皆さんの「夢」「希望」「情熱」がたくさん「ロマン」の中から、おした「料理人」と、自慢の素材を作るかがいました。

子どものように大事に育てる

つがる市のメロン農家は、糖度に強いこだわりを持っていて、つがるブランド認定基準の糖度15度を目安に、それ以上の甘さを目指して毎日競争しています。

ただ、自分の経験や栽培技術を隠すことはありません。お互いに情報

を交換しながら、地域全体でより高品質なメロンを作ろうと精進しています。

メロンはなかなか言うことを聞いてくれません。だから、毎日必ず畑に出ます。特に温度管理には気を使い、風向き考えながらビニールトンネルを開け閉めして、大事に育てる。子どものように毎日の成長が感じられ、育てる喜びを感じます。

お客さんの声が聞ける

私たち農家は、作ったものを出荷して流通に乗せてしまうと、どこの誰が買ってくれたのか、いくらで売られているのか知ることができません。このアンテナショップを通じてそれを知ることができるし、直接食べた人の声が聞ける。それがとても楽しみです。

メニューは、想像していなかったおもしろいものばかり。特に生メロンサンドが気になるので、ぜひ家族で食べに行ってみたいと思います。

もっと仲間を増やしたい

冬でも市産メロンをお店に出せるようになればすごいこと。そのため

の女性は「品種によって全然風味が違う。どれも甘くておいしい」と少し驚いた表情で話していました。また、この日はオープン記念として先着50人にメロン1玉をプレゼント。福島市長からお客さん一人一人に、つがるブランド認定のタカミメロンが手渡されました。



開店を待つお客さんの列

に、農家としては、一年中収穫できる技術、例えば温泉熱を利用したハウス栽培や水耕栽培などに取り組むチャンスがあれば挑戦したい。この地域での農業の可能性が広がり、つがる市で農業をやりたいという若い仲間が増えて欲しいと思います。
※土を使わず水と液体肥料で育てる栽培方法